

「大阪府高等学校生物教育研究会」協力会だより

第20号(2019年4月)

府生物教育研究会創立70周年記念行事を終えて・・・

◇◇ 次期新体制へのバトンタッチ ◇◇◇ 会長 中野 俊勝

今冬は、時々寒暖の気温差の激しい状況がありましたが、結果的には暖冬でした。

協力会会員の皆様におかれましては、日々ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、協力会の活動に多大なるご理解とご協力を賜っていますことに厚くお礼を申し上げます。

さて、私達現協力会役員は、初代会長江藤昌晴先生から引き継いで、2期6年を務めました。さらに続いて研究会創立70周年記念行事に向けて任期の1年延長となりました。

それだけに、昨年70周年行事に参加し協力を終えてほっと一息つかせてもらい、これまで協力会として研究会への支援を種々継続させてもらっていますことを嬉しく思っております。これも会員の皆様方の協力会へのご厚情によるものと深く感謝申し上げます。

ところで、昨年ノーベル医学生理学賞を受賞された本庶佑先生が、受賞決定直後の記者会見で子どもたちへのアドバイスとして、「教科書を信じないように」と話されました。

既成事実の塊である教科書を信じるなどと言って強調されたのは、『決めつけたものの見方・考え方』をしないようにとのことで、いろいろな現象に興味関心を持つよう、探求心の基本を説かれたのだと思います。

近年、AI（人工知能）の進歩は急速で、やがて人間から多くの仕事を奪う（シンギュラリティー）と言われていています。しかし、自然現象などへの探求心はAIには、到底望めないことです。そこで、府生物教育研究会における先生方の活動が一層活性化して、その成果が各学校現場において発揮され、生徒の探求心がますます高まり充実した生物教育に反映することを期待いたします。

私達は、次期総会にて新役員にバトンタッチをいたしますが、これ迄ご指導ご鞭撻賜りましたことに心からお礼を申し上げますと共に、今後も協力会の活動に続けてご理解ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

それでは、結びに、協力会会員の皆様のますますのご健勝ご多幸を祈念申し上げます。

事務局より

① 研究会創立70周年の研究会式典・祝賀会が盛大に行われました。

詳細は、以下の報告を参照下さい。正会員33名と元会員13名に案内しました。式典参加者は、和佐、古久保、竹林、大島、広瀬、中野会長、牧野、小畑、平岡、井上、松本、辻本の各氏12名で、祝賀会参加者は上記の中野会長以下の7名でした。正会員の欠席者には、記念品と資料をお送りしました。

② 今年度の総会

ご都合の付く方は出席して下さい。5月31日(金)、自然史博物館で研究会総会の後、4時30分より例年通り行います。詳細は、以下の「4、今年度の行事予定」を参照して下さい。役員を改選して次へバトンタッチします。

③ 今年度も続いて会員登録(会費振り込み)をお願いします。

会費振り込み用紙を同封しますので、5月下旬ころまでに振り込んでいただきますよう、よろしくをお願いします。皆様のご協力により、会計には多少余裕ができました。ありがとうございます。会費は正会員3,000円、賛助会員2,000円ですが、寄付を上乘せして振り込んでいただいております方には、重ねて御礼申し上げます。なお、振込用紙の連絡欄に近況をお書きください。次号に掲載いたします。

④ 研究会の会誌は、この協力会の助成金等をもとに刊行されています。6月発行の「協力会だより21号」発送の際にお届けします。なお、今年度の会誌には「協力会の10年の歩み」をまとめた文が掲載されますのでお読み下さい。

1 2018年度 行事報告

(1) 大阪府高等学校生物教育研究会創立70周年記念式典・祝賀会に参加して

牧野修司 記

I、記念式典の部

① 来賓挨拶

② 「記念講演」として、「iPS細胞研究のこれまでとこれから」と題して、講師の京都大学iPS研究所の中川誠人先生の講演があった。

講演要旨:2007年にヒトのiPS細胞の樹立を山中伸弥教授が発表してからすでに10年以上の月日が流れました。2014年夏に始まった理化学研究所による世界初のiPS細胞を用いた臨床研究を皮切りに、iPS細胞を用いる再生医療の試みが本格化されつつあります。京都大学iPS細胞研究所では、2015年夏に再生医療用iPS細胞の提供を開始しました。この影には、iPS細胞の医療応用の可能性を信じて、数々の問題を解決してきた多くの研究者の努力が結実したものです。iPS細胞とはどのような細胞なのか?そもそも、なぜiPS細胞が作られたの

か？という基本的なことから、iPS細胞を臨床応用するためにはどうすれば良いのか？そして、iPS細胞技術の応用の現状と将来についてお話しいたします。（研究会文書より抜粋）

講演の中で、臨床研究がまだまだ進んでいないことを話された。そのため、実験室でiPS細胞培養の努力がなされ、その結果、適正な培地が味の素から、また、細胞の接着のためのコーティング剤が阪大・ニッピから製造販売されることになった。これによって、いよいよ臨床研究が進むことになったと言われた。

臨床応用には、加齢黄斑変性症に実施された「細胞移植」や創薬、毒性試験、副作用試験などの「病態モデル」としての利用がある。

今後、多くの人に移植可能なiPS細胞などの培養の発展により、臨床応用が目覚ましく進むことを切に願いたい。

また、講演の中で自己紹介をされ、先生がこのような研究に入られたのは、高校時代の生物の先生の授業において興味を持ったことであるとおっしゃった。やはり、高校の生物教育の重要性が強く思われた。（詳細は、研究会誌でお読みください。）

③「特別講演」として「これから求められる生物教育を考える-新学習指導要領の改訂のポイントから-」と題して、講師の文部科学省 初等中等教育局教育課程課の藤枝秀樹教科調査官より、講演があった。

高等学校の新学習指導要領が平成30年3月30日に公示された。改訂のポイントを話された。新しい教育課程で実施されるのは、2022年度から年次進行実施になるが、「大学共通テスト」など、現高校1年生から方向性などに変更などがあり、何らかの先行実施があるようだ。

教科等の資質・能力の3つの柱は、次の①「知識及び技能」、②「思考力、判断力、表現力等」、③「学びに向かう力、人間性等」で、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の観点からの授業の見直し、改善が求められた。そして、各教科等の「見方・考え方」が重視される。

高校理科の改訂のポイントとしては、科学的に探究する学習活動の充実として、探究の過程の明確化あげられた。また、日常生活や社会との関連を重視することがあげられた。

理科の見方・考え方を働かせ、科学的探究をするために必要な資質・能力の育成が目指され、教師が教えるのではなく、生徒が学ぶことを大切にするという、「Teaching」から「Learning」への展開が必要と言われた。

他に内容についての現行との変更点、重要用語数のこと、新科目の「理数」のことなどを説明された。私見として、理科教育としての「正解が一つではない時代」にあって、教師一人一人が答えや考え方をもち必要がある。そして、最後に、最も大切なことは、生徒にとって「楽しい授業」が展開出来ることと述べられた。

課題は教師が与えるのではなく、生徒が自ら「課題を設定」することが求められ、「教科書を教えるのではない」など現役の先生方には、求められる教科学習の改善にはかなりの苦勞が伴うと考えられた。生物教育研究会のこれからの活動が重要ではないかと思われた。

（詳細は、研究会誌でお読みください。）

④「記念事業報告」では、岡本元達研究会事務局長が概略を報告した。

II、祝賀会の部

①挨拶等

寺岡正裕研究会会長から主催者挨拶があり、続いて大阪府教育庁、大阪市教育委員会の指導主事の挨拶の後、協力会の中野俊勝会長から、9年前の会の発足の経緯などを話された後、研究会70周年に対する祝辞を述べられた。

さらに、協力会の牧野より、乾杯の発声をさせていただいた。

歓談の後に、大阪府高等学校地学教育研究会の中須賀久尚会長から、生物教育研究会へのエールを含む、スピーチがあった。

②記念事業報告として、奄美大島での「教員現地研修」、ウミホテルの「生徒研修」、及び「指標生物調査(A,B法)が宮本裕美子先生、河添純子先生、中村哲也先生からあり、研究会活動の状況が垣間見られた。

(2) 第10回協力会総会

2018年5月18日(金)研究会総会と同日に実施 (第19号で報告済み)

(3) 第10回歴史散歩「観心寺境内」を歩く(松本先生による案内)

2018年11月10日(土)、当日は晴れであった。近鉄・南海河内長野改札口で13:00辻本先生と会い、13:10発のバスで観心寺に向かう。

旅館松中亭を見て、観心寺境内へ入り、次の順に散策した。南門(本多俊次建立)、後村上天皇行在所旧蹟、中院、詞梨帝母天堂、恩賜講堂、靈宝館、北斗七星の七塚、次に金堂、建掛の塔、道興大師御廟、大楠公首塚、新待賢門院御陵参考地、天誅組石碑。

最後に藤田精一の石碑等を見学し、色づき始めた紅葉を楽しんだ。参加者は辻本先生、松本夫妻の計3名であった。(松本 弘 記)

(4) 2017年度末に定年を迎えられた先生方を囲む会

例年、案内を頂き会長をはじめ役員が出席していたが、今年度はみんな都合がつかず、相済まなく欠席した。

(5) 役員会の開催

近々に開催し、新役員と活動方針を決めて、2019年度を新たにスタートさせたい。

2 2018 年度会計報告

収入		支出	
前年度繰越金	243,521円	「協力会だより」	
会費・寄付金	140,000円	第18号発送経費	5,400円
2,000円	3人	第19号発送経費	16,000円
3,000円	20人	研究会へ助成金	100,000円
5,000円	13人	会費払込料金	3,550円
9,000円(3年分)	1人	70周年記念会案内	6,100円
(計37人、他に前年度納入者3名)		記念品・資料代	34,000円
70周年寄付(2名)	13,000円	御祝・出席者補助	30,000円
		欠席者送付代金	17,347円
収入合計	<u>396,521円</u>	支出合計	<u>212,397円</u>
	差し引き	184,124円	これを次年度へ繰り越します。

「監査の結果、適正に処理されていたことを確認しました。」

2019年4月5日 会計監査 松本 弘

3 今年度(2019年)の行事予定

各行事については、総会・役員会で決定します。次号にて詳しくお知らせします。

(1) 総会(研究会総会と同日に実施)

日時: 2019年5月31日(金)

場所: 大阪市立自然史博物館(職員通用門より入場)

内容: 2時30分より生物研究会総会 その後記念講演(講師 元館長谷田一三氏)

終了後すぐ(4時30分頃より)20分程、協力会総会を行います。

そのあと近くの店で懇親会を開催予定。

(2) 研究会行事に参加

(3) 協力会行事

4 2018年度『大阪府高等学校生物教育研究会協力会』会員

(H31.4.1現在、H30会費納入者)

(正会員) (記載順は会誌記載の役員名簿による)

今安達也 松田仁志 和佐真宏 江坂高志 渡邊勉治郎 足立 堯
萱村善彦 福坂邦男 古久保俊子 吉川 浩 河野成孝 中野俊勝

辻本昭信 松本 弘 山住一郎 澄川冬彦 奥本 隆 石崎英男
富田織江 小畑和人 大江 進 田中正視 牧野修司 奥野嘉彦
大島みどり 竹林隆昭 杉山友恵 平岡誠志 佐々木洋一 安井博司
広瀬祐司 井上慎一 橘 淳治 以上 33 名

(賛助会員)

寺岡正裕 柴原信彦 幸川由美子 北浦隆生 中井一郎 木村 進
以上 6 名

(元会員)

浅野素雄、山田惇、山田孝子、寺井見一、原田彰、三木正士、西川巖、中村武男、
柿迫修、吉村烈、中根将行、江藤昌晴

(物故会員)

佐古廣衛 原本哲也 多々浩爾 中原 圓 平賀正男 梶村重次

★住所、電話等の個人情報については事務局へお問い合わせください。

5 協力会役員と事務局、

- ・会長・・・ 中野俊勝 ・ 副会長・・・ 牧野修司
- ・幹事（事務、会計、会計監査）・・・ 松本弘、大島みどり、辻本昭信
- ・事務局（辻本昭信） 振替 口座番号 00910-2-226178
口座名 大阪府高等学校生物教育研究会協力会
住所 高槻市西冠1-10-1 電話 072-675-1710
FAX 072-675-1736 メール s.tsujimoto@tcn.zaq.ne.jp
研究会のホームページ (<http://www.omnh.net/seiken/>) に「協力会」の記事を掲載

6 会員の近況

この欄は、振込用紙やはがき等により連絡があったものを記載します。皆様もどうか一報ください。HPへの掲載は、個人情報を考慮して一部は削除します。投稿記事も歓迎します。

2018年6月までの分は前号に掲載済、今回は70周年式典・祝賀会の案内に対する返信寺井見一氏（元会員）

2018年4月に奈良へ転居しました。老々介護と多忙な日々でした。朝、二足歩行からポールを使った四足歩行を一時間弱行っています。研究会創立70周年おめでとうございます。

広瀬祐司氏

年度末に大阪府を退職し、大阪国際滝井高等学校に勤務しています。当日は日直業務のため、記念式典のみ参加します。

足立 堯氏

当日桜宮高校で最初に卒業させた学年の同窓会があり、出席できる担任が小生1人となり、出席することになっています。申し訳ありませんが70周年行事は欠席します。体力がなくなりましたが、可能な限りの自然観察は続けています。

澄川冬彦氏

奈良学園中・高等学校に勤務しています。当日は校務のため参加できませんが、資料を頂くことは出来ませんか。

杉山友恵氏

式典・祝賀会当日はちょうど外国にいるため、参加できません。盛会を祈念します。

山住一郎氏

70周年、心よりお慶び申し上げます。今年度で学校関係の仕事が終わります。今後は、植物の分類・系統の仕事に専念したいと思っています。

安井博司氏

所用のため欠席です。お陰様で元気に過ごしています。身近な自然の観察にも出かけています。

佐々木洋一氏

すでに予定が入っていて出席できません。久しぶりに懐かしい先生方とお会いしたかったのですが残念です。元気にしておりますので、皆様方によろしくお伝え下さい。

井上慎一氏

式典・祝賀会ともに参加させていただきます。今年度も奈良の帝塚山大学の学習支援室に嘱託として勤務しています。当日は懐かしい先生方とお会いできる事を楽しみにしています。

橘 淳治氏

4月から神戸学院大学に特任講師で行っています。

石崎英男氏

お世話ご苦労様です。どうにか百姓（米、果樹、野菜他）を続けています。来年70歳になります。

中村武男氏（元会員）

病気2人3脚です。

三木正士氏

今夏 88 歳となり、歩くのも大義となってしまいました。会の皆様によろしく。

平岡誠志氏

弟への自宅介護生活の息抜きとして、今年は夏に 3 度出かけました。鳥海山と月山、北海道十勝のアポイ岳、新潟平野と小佐渡です。1,000 メートルまでの山登りはまだ何とか出来ました。

西河 巖氏（元会員）

胆管結石の除去（内科）と胆のう摘出手術（外科）で、同じ病院に 2 回入院し、以前から足も弱くなっています。リハビリに通っていますので、この度は失礼します。

大江 進氏

大阪自然史フェスティバル 2018 に出ますので欠席します。教育センターは今年の 3 月で退職しました。来年度から甲南大学で非常勤講師として理科教育法の生物分野を担当することになっています。また、よろしく願います。

松田仁志氏

元気でおりますが、10 月 16 日にテニス中にアキレス腱断裂で入院中のため出席できません。いつも連絡頂きありがとうございます。

訃報 梶村重次様

平成 30 年 1 月 9 日に逝去されました。会員一同、謹んで哀悼の誠を捧げます。

70 周年記念行事の案内を差し上げましたところ、10 月 30 日に奥様から電話がありました。膵臓ガンが肝臓に転移して本日手術したとのことでした。平成 30 年 1 月までは、元気にお百姓をされていて、タケノコやキノコの栽培もやっておられました。実は、私は梶村さんとは 50 年来の友で、実弟や義兄とも親しくしていましたので、病気のことは知っていました。見舞いは辞退されていたので、個人的に葬儀に列席させて頂き、9 ヶ月ぶりにお顔を拝見しました。

梶村さんは関西大倉高等学校に勤めておられ、私学のまとめ役として、長い間研究会の委員や副会長を歴任されました。夏休みには、私学の中学・高校の生物教員研修会を世話されていました。この会の講師としてお手伝いさせて頂いたことを懐かしく思い出します。また、設立当初から生物協力会の幹事としてお世話になっていました。

梶村さん、また、お浄土でお会いしましょう。「俱会一処」

(辻本記)